



九州大学教育改革シンポジウム 2017 Kyushu University Educational Innovation Symposium 2017

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教
渡辺 智明



2017年7月10日、九州大学伊都キャンパス椎木講堂において、九州大学教育改革シンポジウム2017が開催されました。このシンポジウムは、九州大学が展開してきたリーディング・プログラムをはじめ様々な教育プログラムについて、これまでの成果を学内外に発信するとともに、これからの大学院教育について検討するためのものです。

第1部では、本学の久保総長の開会挨拶にはじまり、文部科学省の井上睦子氏（高等教育局大学振興課改革推進室長）の来賓挨拶、さらに安西祐一郎氏（日本学術振興会）の「大学院は何のためにあるのか～大学院教育の将来展望～」の基調講演がありました。



次のセッションは、グリーンアジアをはじめとする3つのリーディング・プログラムの紹介するものであり、本プログラムからセンター長である谷本潤教授が活動内容やこれま

での成果を報告しました。また、後半には、各プログラム修了生の報告があり、グリーンアジアから第1期生である儀間弘樹君（オーエスジー株式会社）が報告を行いました。まだ研修期間中の多忙な中での参加にも関わらず、グリーンアジアでの学習と職場で求められる知識との接合など丁寧なプレゼンと行ってくれました。修了生の報告後は、修了生、プログラム・コーディネーター、民間企業のゲストである小野由里氏（三菱総研）と石川正



男氏（千代田化工）らによるパネル・ディスカッションが開催され、活発な意見交換がなされました。

シンポジウムの第2部では、学生によるポスターセッションが行われ、各リーディング、大学院から大学院生が自らの研究成果を発表しました。本プログラムからは修士課程・博士課程の10人（留学生5名・日本人学生5名）がそれぞれ研究成果についてポスター発表を行いました。優秀な発表を参加者の投票によって決定され、最終的に本プログラムからは、内田勇氣君のポスター（「Cu(111)上での六方晶窒化ホウ素原子膜のエピタキシャルCVD成長」）と前蔵貴行君の発表（「ドーピング基板を用いた非対称-金属/Ge/金属構造光素子の作製・特性評価」）が受賞（銅賞）することができました。



本シンポジウムは、グリーンアジアの活動を学内外にアピールする意味において、有意義だったと思います。また、グリーンアジアのOB、在籍学生の積極的な参加によって、本シンポジウムも恙無く終えることができました。シンポジウムに参加のOB・学生、さらには教員の皆さんにこの場を借りて御礼申し上げます。また、最後になりますが、日頃「実践産業」科目の御協力頂き、今回パネル・ゲストの招聘を御承引頂いた千代田化工株式会社様、および同社・石川正男様に対してこの場を借りて心より感謝申し上げます。

